

病理 専門研修プログラム

◆ プログラムについて

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院を基幹施設とする病理専門研修は、大学以外の医療機関が基幹となる数少ないプログラムです。豊富な研修資源（症例、指導医、技術）と、多くの病理専門医を育成してきた実績に裏打ちされた内容です。多数の大学、病院が連携施設として登録されており、専攻医のニーズと育成プランに応じた柔軟に対応できるプログラムです。すべての病理診断領域で、専門医にふさわしい知識と経験を積むことができ、分子病理診断など治療方針決定に重要な病理診断技術についても研修が可能です。

本プログラムでは、病院の中央診断部門の基幹をなす病理診断医のより高いレベルの専門医を育成することを目的としています。

※プログラム内容の詳細は、当院ホームページよりご覧下さい。

◆ 専攻医の処遇

- ・身分：専攻医（常勤嘱託）
- ・給与：3年次 基本給 290,300 円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
4年次 基本給 305,800 円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
5年次 基本給 320,100 円＋諸手当（地域手当、医師確保調整手当等）
- ・他施設で研修する場合の雇用条件は、それぞれの研修施設の給与、社会保障、労働条件による。退職金等は、退職時の施設基準に従う。雇用にかかわる住宅、交通などの条件は、当該研修施設の基準に従う。

◆ 研修コース

	1年目	2年目	3年目
パターン1	基幹施設	前半：基幹施設 後半：基幹施設＋連携施設	基幹施設＋連携施設
	1年目	2年目	3年目
パターン2	連携施設	前半：連携施設＋基幹施設 後半：連携施設	基幹施設＋連携施設
	1年目	2年目	3年目
パターン3	連携施設	基幹施設	基幹施設＋連携施設
	1年目	2年目	3年目

当院の病理部は、年間病理組織検査 14000 件、細胞診 10000 件、分子病理診断 3000 件、病理解剖 30 件と、全国でも有数の多数検体を扱う病理部です。

スタッフ

病理専門医（指導医）、細胞診専門医 2 名

口腔病理専門医 1 名

専攻医 3 名

- 県内屈指の検体数
- 骨髄・骨髄移植病理
- 分子病理診断
- 臨床各科との密なコミュニケーション、定期的なカンファレンス開催

当院病理部は、「患者中心の病理部」がモットーですので、ほとんどの科との合同カンファレンスが定期的に行われています。病理解剖症例の CPC も頻回に開催され、それぞれの専門科に特化した CPC が行われます。治療方針決定や予後推定など治療に直結する情報を提供するため、積極的に分子病理診断を行っています。一般病院で実施可能な分子病理診断では、全国で最も多くの検体及び実施項目を誇っています。世界レベルでの標準化に即応する体制をとって、最先端かつ確実な診断を目指しています。

当院病理部が基幹施設の専門医育成プログラムを有しております。病院における最良の病理医を育成するために、多数症例の詳細な検討、ピアレビューによる診断精度の確保により、レジデントに対して安全で確実な診断への道筋をトレーニングしています。

- ◆ 病理プログラム採用実績（平成 31 年度：1 名、令和 2 年度：1 名、令和 3 年度：1 名）

お問合せ先

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 教育研修管理課

TEL：052-481-5111 E-mail：kensyu-jimukyoku@nagoya-1st.jrc.or.jp